

第二期ライチョウ保護増殖事業実施計画の準備について

1. 第二期計画策定方針

第一期実施計画策定時より、ライチョウ生息現況や保全対策の進捗が大きく変化しているため、南アルプス北岳地域での生息域内保全の評価を行なう平成 31 年度を、第二期実施計画策定の検討期間とする。このため、第一期実施計画を 2 年間延長する。

2. 第一期実施計画実施における主要な課題

- ・最新のライチョウの生息状況の全体像が十分に把握されていない。
- ・各山岳における減少影響要因が十分に把握されていない。
- ・一定程度の生息域外保全技術は構築されたが、課題が残っている。

3. 第一期実施計画の事業内容（★は特に優先して実施する事項）

（1）生息域内保全

- ①山岳毎の生息状況の把握 ★
- ②減少の影響要因の解明★
- ③ケージ内保護法の技術確立及び実施★
- ④山岳毎の生態調査
- ⑤従来高山帯に生息していなかった野生動物等の侵入防止対策
- ⑥環境収容力の推定

（2）生息域外保全

- ①目的設定及び野生復帰の必要性等に関する検討★
- ②生息域外保全実施計画の作成★
- ③ライチョウの飼育・繁殖技術の確立★
- ④ライチョウ飼育下繁殖の体制構築★
- ⑤ファウンダーの確保の技術確立★

（3）巡視・普及啓発

（4）人材育成及び実施体制の強化

4. 見直しのポイント

生息域内保全	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年度のケージ保護が終了した段階での評価 ・中央アルプス等の絶滅地域への対応方針整理 ・火打山等の大幅な生息環境変化への対応方針整理
生息域外保全	<ul style="list-style-type: none"> ・保険個体群対象地域の再検討（現行では南アルプス個体群） ・新たな飼料の開発 ・腸内細菌叢に関する知見を活用した飼育技術開発 ・繁殖生理の究明（有精卵率向上、質の高い卵確保等） ・遺伝的多様性確保に関する技術開発 等
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・野生復帰技術確立に向けた検討と計画策定 （生息域外保全及び生息域内保全の両方で連携して実施）

